

## 第3節 発展を支える交通ネットワークの充実

### 1 広域道路ネットワークの構築

#### ●東九州自動車道

・現在、4区間の約21kmで4車線化事業が展開されています。

令和6年11月には臼杵IC付近の臼杵トンネルが貫通するとともに、令和7年3月には宇佐IC～院内IC間の本線部約3.1kmが開通するなど、着実に整備が進んでいます。

#### ●中九州横断道路

・竹田阿蘇道路は令和4年度から工事に着手するなど、事業が進められています。また、県内の残る未事業化区間である「大分～犬飼」については、環境影響評価手続きなどが進んでいます。令和6年11月には、大分県が主催となり「中九州横断道路ステップアップシンポジウム」を開催し、早期全線開通に向けた機運醸成を図りました。

#### ●中津日田道路

・全長約55kmのうち、約28kmが供用されており、現在、約22kmの区間で事業を推進しています。「三光本耶馬溪道路」（直轄権限代行）においては、橋梁などの工事が進められています。また、「耶馬溪山国道路」では調査・設計、「日田山国道路」では1号トンネル本坑及び避難坑の工事を進めています。



大分県の広域道路ネットワーク図



東九州自動車道 開通状況  
(宇佐IC～院内IC 本線部)



日田山国道路 整備状況  
(1号トンネル 日田側坑口)

#### 【目標指標の達成度】

目標指標	基準値		R6年度		
	年度	基準値	目標値	実績値	達成度
大分市中心分まで概ね60分で到達できる地域の割合	H26	73%	78%	77%	98.7%
九州の東の玄関口としての拠点化主要施設まで概ね30分で到達できる地域の割合	-	-	54%	54%	100%
地域高規格道路整備延長	H26	67km	100km	87km	87.0%

#### 【指標による評価】

評価	理由等
概ね達成	令和6年度に国東安岐線（下原工区）や平原耶馬溪線（下河内工区）等が開通し、目標を概ね達成した
達成	令和6年度に豊後高田安岐線（森工区）や中津高田線（浜高家工区）等が開通し、目標を達成した
達成不十分	日田山国道路において、トンネルの設計基準変更に伴う避難坑の追加等により、目標期間内の開通が困難となったことから、達成不十分となった

## プラン(2016年～2024年)の成果と今後の施策展開

### <プランの成果>

・東九州自動車道宇佐IC～院内IC間の本線部4車線化、中九州横断道路における朝地IC～竹田IC間の開通、中津日田道路における中津IC～青の洞門・羅漢寺IC間や耶馬溪山移IC～下郷交差点間の開通など、産業や観光の基盤となる広域道路ネットワークの形成が着実に進みました。

### <今後の施策展開>

・県内の広域道路ネットワークは未だ整備途上であることから、今後も高規格道路の事業中区間の早期完成や未事業化区間の早期事業化に向けた取組などを推進し、人や物の流れの活性化を図ります。

## 第3節 発展を支える交通ネットワークの充実

### 2 地域道路ネットワークの充実

#### ●地域道路ネットワークの整備

- ・幹線道路は、渋滞や交通安全上等の課題の多い箇所、インターチェンジへのアクセス道路等の整備を進め、物流効率化や産業の発展、生活利便性の向上に寄与しています。令和6年度は県道国東安岐線下原工区などの整備推進により、地域道路ネットワークの充実を図りました。
- ・異常気象時等においても地域間のネットワークを確保するため、緊急車両を速やかに通れるようにする啓開ルート上におけるのり面崩壊対策を推進しています。令和6年度は、森耶馬溪線など10路線11箇所を実施しました。



国東安岐線 下原工区（国東市）



啓開ルート 森耶馬溪線（玖珠町）

#### ●中山間地域等の生活道路

- ・既設の道路敷を利用した路肩拡幅や側溝整備等の局所改善を図っています。令和6年度は、安心院湯布院線など94箇所を実施しました。
- ・災害時の通行止めにより、集落の孤立が発生する可能性のある道路について、道路のり面对策を推進しています。令和6年度は、四浦日代線の2箇所です業を推進しました。

《路肩拡幅 実施事例》



安心院湯布院線（宇佐市）

《道路のり面((落石)対策 実施事例》



四浦日代線（津久見市）

#### 【目標指標の達成度】

目 標 指 標	基準値		R 6 年度		
	年度	基準値	目標値	実績値	達成度
小規模集落から幹線道路へのアクセスを改善した集落数	H26	-	150集落	144集落	96.0%

#### 【指標による評価】

評 価	理 由 等
概ね達成	下恵良九重線（田平工区）や三重野津原線（藤北2工区）等が開通し、目標を概ね達成した

## プラン(2016年～2024年)の成果と今後の施策展開

### <プランの成果>

- ・地域間交流を促進する道路やインターチェンジへのアクセス道路などの整備、啓開ルート上におけるのり面对策により、地域道路ネットワークの走行性や安全性が向上しました。
- ・中山間地域等における道路整備や、地域の実情に応じた局所改善などにより、地域の生活道路のサービス水準や安全性などが向上しました。

### <今後の施策展開>

- ・渋滞や歩道の未整備など多くの課題を有する幹線道路や交通拠点へのアクセスを強化する道路など暮らしや産業を支える道路整備を進めます。
- ・中山間地域や半島部などの生活道路においては、地域のニーズや実情に応じ、様々な手法を用いた整備を進めるとともに、集落の孤立を防ぐ落石対策などの道路防災対策も進めます。

## 第3節 発展を支える交通ネットワークの充実

### 3 海上輸送拠点の強化

#### ●港湾機能の強化

##### <大分港>

シャーシ取扱台数が増加傾向にあり、今後の拡大も見込まれる中、岸壁水深やシャーシ置き場の分散が課題でした。輸送能力の向上と荷役作業の効率化を図るため、新RORO船ターミナルの整備を推進し、令和6年度に完成しました。



完成した新RORO船ターミナル

##### <臼杵港>

四国航路フェリーが1日14便の過密ダイヤで運航しており、港内では大小様々な船舶が航行しています。安全な航行の確保並びに港湾機能の強化を図るため、新フェリーターミナルの整備を推進し、令和6年度に完成しました。



完成した新フェリーターミナル

#### ●交通アクセスの向上

##### <中津港>

主要な幹線道路とのアクセスを改善するため、バイパス道路の整備を推進しました。



田尻地区の臨港道路施工箇所

#### ●ポートセールス

港湾施設の利活用を促進するため、令和6年度は大分市内及び県外会場（東京・熊本・鳥栖・宮崎・都城）で、セミナーを開催しました。



RORO船利用促進セミナーの開催（鳥栖会場）

#### 【目標指標の達成度】

目標指標	基準値		R6年度		
	年度	基準値	目標値	実績値	達成度
新規バースの整備延長 ※専用岸壁除く	H26	-	270m	510m	188.9%
県内港湾の公共埠頭取扱貨物量	-	-	45,000千ft	42,270千ft	93.9%

#### 【指標による評価】

評価	理由等
達成	整備を計画的に進め、令和6年度に大分港大在西地区の整備が完了し、目標を達成した
概ね達成	令和6年度は自動車工場の出荷停止などの影響があったものの、目標を概ね達成した

## プラン(2016年~2024年)の成果と今後の施策展開

#### <プランの成果>

- ・大分港、臼杵港をはじめとした港湾整備を着実に進めるとともに、ポートセールスによって港湾施設の利活用を促進した結果、公共埠頭の取扱貨物量はコロナ禍により一時的な落ち込みは見られたものの、順調に増加しました。

#### <今後の施策展開>

- ・大分港における船舶の大型化に対応した岸壁整備など港湾施設の機能強化を進めるとともに、別府港のターミナル集約など多様化するニーズに対応した港湾空間の再編を進めます。
- ・ポートセールスを通じた海上輸送網の強化に加え、港湾利用事務の電子化を図るプラットフォーム「サイバーポート」を活用した利便性向上を図ります。